



# CHAPTER 7

## SIP URI API

Lua 環境には、解析済み SIP URI の操作を可能にする一連の API が用意されています。次の SIP URI API が使用できます。

- [applyNumberMask](#)
- [getHost](#)
- [getUser](#)
- [encode](#)

### applyNumberMask

`applyNumberMask(mask, mask-char)`

この関数は、番号マスクが指定された場合、指定された番号マスクを解析済み URI のユーザ部に適用してから、修正されたユーザを解析済み `sipUri` オブジェクトに格納します。修正された URI のユーザ部の文字列表現が返されます。

#### 番号マスクの適用

マスク パラメータによって、URI のユーザ部に適用される変換が定義されます。大文字の「X」は、番号マスクのワイルドカード部分を指定します。たとえば、マスクが「+1888XXXXXXXX」の場合、例のユーザ部「4441234」にマスクが適用されたとすると、得られる文字列は「+18884441234」です。

マスクされるユーザ部に見つかった文字数が、マスクのワイルドカード文字数よりも少ない場合、一番左のワイルドカード文字から「X」が置かれます。前述のマスクを例のユーザ部「1234」に適用すると、結果の文字列は「+1888XXX1234」になります。マスクされるユーザ部に見つかった文字数が、マスクのワイルドカード文字数よりも多い場合、ユーザ部の一番左の文字から切り捨てられます。たとえば、マスク「+1888XXXX」がユーザ部「4441234」に適用される場合、結果の文字列は「+18881234」になります。

**例：番号マスクを URI のユーザ部に適用した後、ローカル変数を、P-Asserted-Identity の URI のユーザ部の値に設定します**

#### スクリプト

```
M = {}  
function M.inbound_INVITE(msg)  
  local uriString = msg:getUri("P-Asserted-Identity")  
  if uriString  
  then  
    local uri = sipUtils.parseUri(uriString)  
    if uri
```

```

        then
            local user = uri:applyNumberMask("+1919476XXXX")
        end
    end
end
return M

```

### メッセージ

```

INVITE sip:1234@10.10.10.1 SIP/2.0
.
P-Asserted-Identity: <sip:1234@10.10.10.1>
.

```

### 出力/結果

```
Local variable user is set to "+19194761234"
```

## getHost

```
getHost()
```

この関数は、解析済み sipUri オブジェクトのホスト部分を取り出して、それを文字列として呼び出し側に返します。

**例：ローカル変数を、P-Asserted-Identity ヘッダー内の URI のホスト部分に設定します。**

### スクリプト

```

M = {}
function M.inbound_INVITE(msg)
    local uriString = msg:getUri("P-Asserted-Identity")
    if uriString
    then
        local uri = sipUtils.parseUri(uriString)
        if uri
        then
            local host = uri:getHost()
        end
    end
end
return M

```

### メッセージ

```

INVITE sip:1234@10.10.10.1 SIP/2.0
.
P-Asserted-Identity: <sip:1234@10.10.10.1>
.

```

### 出力/結果

```
Local variable host is set to "10.10.10.1"
```

## getUser

```
getUser()
```

この関数は、解析済み sipUri オブジェクトのユーザ部分を取り出して、それを文字列として呼び出し側に返します。

#### 例：ローカル変数を、P-Asserted-Identity ヘッダー内の URI のユーザ部分に設定します

##### スクリプト

```
M = {}
function M.inbound_INVITE(msg)
    local uriString = msg:getUri("P-Asserted-Identity")
    if uriString
    then
        local uri = sipUtils.parseUri(uriString)
        if uri
        then
            local user = uri:getUser()
        end
    end
end
return M
```

##### メッセージ

```
IINVITE sip:1234@10.10.10.1 SIP/2.0
.
P-Asserted-Identity: <sip:1234@10.10.10.1>
.
```

##### 出力/結果

```
Local variable user is set to "1234"
```

## encode

```
encode()
```

この関数は、解析済み sipUri オブジェクトを文字列にエンコードして、それを呼び出し側に返します。エンコードよりも前に解析済み sipUri オブジェクトに加えられた変更はすべて、得られる文字列に反映されます。

#### 例：P-Asserted-Identity ヘッダーの URI を解析し、番号マスクを適用してから、得られた URI をエンコードします

##### スクリプト

```
M = {}
function M.inbound_INVITE(msg)
    local uriString = msg:getUri("P-Asserted-Identity")
    if uriString
    then
        local uri = sipUtils.parseUri(uriString)
        if uri
        then
            uri:applyNumberMask("+1919476XXXX")
            uriString = uri:encode()
        end
    end
end
return M
```

### メッセージ

```
INVITE sip:1234@10.10.10.1 SIP/2.0
.
P-Asserted-Identity: <sip:1234@10.10.10.1>
```

### 出力/結果

```
Local variable uriString is set to "<sip:+19194761234@10.10.10.1>"
```